世界遺産とは

「世界遺産条約」は20世紀の人類が創り出した最高傑作

20世紀は、2つの世界大戦をはじめ、朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東戦争など戦争や紛争に明け暮れた時代であった。それによっておそらく1億人もの人々が尊い命を失ったと思われる。また1945年8月には、広島と長崎に人類史上初の原子爆弾が投下された。20世紀は「戦争の世紀」といっても過言ではない。

その同じ20世紀に、人類の英知を結集し「類まれな地球の遺産」をリスト化する画期的な国際条約が誕生した。それが「世界遺産条約」である。地球46億年の歴史と人類数百万年の歴史のなかから生み出され、今日まで受け継がれてきた「かけがえのない宝物」を人類共通の遺産としてリスト化し、現世代がこれを活用するとともに未来世代にも残していこうという試みである。つまり、世界遺産条約は、地球という星が生成、進化してきた歴史を「人類」という立場からその共通の価値を評価し、リスト化する「地球の記憶」事業なのである。これらの「世界遺産」を各国政府のみならず国際協力で保護していくことが「地球の品位」(注1) を保つために必要不可欠であり、私たち人類に課せられた課題でもある。

コルディリェーラ山脈の棚田（フィリピン）

夜明けのエアーズ・ロック（ウルル、カタ・ジュタ国立公園／オーストラリア）

世界遺産条約とは

世界遺産条約とは、1972年秋にフランスのパリにあるユネスコ（国連教育科学文化機関）の第17回総会で採択された国際条約で、正式には「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」という。地球が創り出したかけがえのない自然や人類が創造した貴重な文化財などを、自然遺産、文化遺産として登録し、保護し、次世代に伝えていくとともに、私たちの身近にある自然や文化財を大切にしていこうということを目的に創られた国際条約である。

2009年1月末現在、「世界遺産条約」の締約国は185カ国（2009年4月にはクック諸島が加わり186カ国となる予定）。世界で最多の加盟国数を誇る国際保護条約である。日本は1972年の条約採択には賛成票を投じたが、国会での批准はその20年後の1992年であった。実に世界で125番目の締約国であり、オランダとともに先進国では最も遅い。なお1992年は国連初の「環境と開発に関する国際連合会議（環境サミット）」がブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催され、世界の環境問題に最も注目が集まった年であった。

世界遺産条約の運営は、条約締約国の中から選ばれた21カ国で構成された「世界遺産委員会」が、毎年、各国から提出された世界遺産登録推薦物件の審議・決定を行う。委員国の任期は原則6年である。しかし、できるだけ多くの国が委員を経験することが望ましいため、4年での交代が推奨されている。世界遺産条約が付託されているユネスコには「世界遺産センター」が設置され、世界遺産の委員会の事務局機能を果たすとともに、世界遺産基金の管理や広報活動などを行っている。

※注についてはP.42で解説しています。